



# 第二中だより

No. 561

開校53周年

生徒数 424名

令和元年 11月1日

和光市立第二中学校

〒351-0106 埼玉県和光市広沢1番4号

TEL 048-462-1793

FAX 048-462-1890

<http://2chu.wako-city.ed.jp/>

## 「絆」

校長 橋本 真

先日の「三葉祭」は、「みんなの手で二中に感動の嵐を」をもたらしました。「響かせよう、みんなの情熱 一人一人の思いを歌詞にのせ、優勝目指して勇唱だ」というスローガンのもと、「三葉祭の成功を」という大きな目標に向かって、生徒全員が取り組みました。そして、ステージで素晴らしい感動的な合唱を披露することができました。私も先生方も大変うれしく思うと同時に、二中の勢いと伝統を実感しました。

### この感動を次につなげよう

三葉祭を作り上げるためには、一人ひとりが自分のパートのメロディーをし



っかり把握し、クラス全員が一体となって表現することが大切であることを実感したと思います。一人ひとりが自分の役割を果たすことによって、全体への貢献と個人の充実感や達成感を高めることができます。さらに、全員がひとつの目標に向かって突き進む時、辛いときには頼れる友達が、楽しいときには共に感動する友達がいます。必死になってがんばった時に生まれてくる友達の絆は、これからの皆さんの人生の中で素晴らしい思い出や宝物になると思います。

そこで、皆さんは、「親友」について真剣に考えたことがありますか。友だちがたくさんいるのは大変結構なことですが、毎日、何となく一緒にいて話をしたり、遊んだりしている友だちのことを「親友」と呼ぶのでしょうか。私が、昔読んだ本の中に「5つの(しんゆう)」っていう漢字が書いてありました。

親友・・・親しい友だち

新友・・・新しくできた友だち

信友・・・信用できる友だち

心友・・・心の友だち

真友・・・本当のことがいえる友だち

どれも何となく意味が理解できるような気がします。

人間には、自分がつらいときや悩んだときに本当に親身になって相談にのってくれたり、自分がうれしいときに心から一緒に喜んでくれる「親友」が必要なんだと思います。しかし、自分だけが勝手にある一人の友だちを「親友」と思い込み、自分のことを理解してくれと要求しているばかりでは本当の「親友」とはなりません。相手が自分のことを思っていてくれていると感じた分、相手のことも親身になって同じように考えてあげられるようになって、はじめて「親友」という関係になれるのだと思います。人は、友だちなくして一人で生きていくことは大変難しいことです。逆に、「親友」がいるということは、大変幸せであり自分にとって人生の大きな財産になります。しかし、すぐに「親友」という関係の友だちができるものではありません。今いる親しい友だちやこれから出会うであろう友だちと日々過ごす中で、真剣に互いを思いやれる関係となったときに「親友」と呼べるようになるのだと思います。もうすでに「親友」と呼べる人がいますと言える人もいるかもしれませんが、今はなくても、心がけていれば、いずれは素晴らしい「親友」が目の前に現れるかもしれません。これを機会に「親友」について少し考えてみて下さい。

### 進路を考える「自分の人生を考え、自分を高める」

3年生は、三者面談では、具体的な進路決定が行われます。自分の人生の道を決めていくこととなります。進路の道は様々ですが、どの道をとどっても苦勞のない道はありません。それぞれの道に苦勞は待ち構えています。要は、自分にとってどの苦勞が「しがいがあり、生き甲斐や喜びを感じる」のかを考え、進むべき道を決めていくことが重要です。

このような意味から自らの進路は、3年生だけではなく、1・2年生から考えておくことが大切だと思います。